



黒塚の里山ニュース

■2023柏倉九左衛門家 ひなまつり開催

2023 柏倉九左衛門家ひなまつり実行委員会は令和5年3月に重要文化財旧柏倉家住宅、旧柏倉惣右衛門家住宅、旧柏倉喜作家、柏倉清右衛門家の4会場で「ひなまつり」を開催しました。

主催者の黒塚のまちなみ保存活用協議会加入の各団体は雛飾り展示に合わせ、趣向を凝らした様々なイベントを企画しました。当 NPO 法人は柏倉清右衛門家の雛飾りと柏倉九左衛門家に伝わる芥子雛と有職雛を展示し、イベント関係は柏倉家 16 代当主による茶道と香道の体験のほか、紅花染め体験、山菜汁の振舞い等々を行ない、多くの見学者やイベント参加者で賑わいました。

3月18日(土)は冷たいなごり雪が降り積もる寒い日にも拘らず、約 90 名の来訪者があり、重要文化財旧柏倉家住宅の入場券持参者等には温かい山菜汁が振舞われました。翌 19 日(日)と 21 日(火)は好天に恵まれ、3 日間で合計約 420 名余りの来訪者がありました。



柏倉九左衛門家に伝わる芥子雛



柏倉家 16 代当主によるお香のお手前

令和5年4月24日 VOL. 6

■「岡雨印」の紅花を活用したワークショップ「シュシュ作り」と「絵画教室」を開催

当 NPO 法人は令和5年3月12日(日)と3月25日(土)に、中山町中央公民館において「岡雨印」の紅花を活用したワークショップを開催しました。

3月12日の「絹の紅花染め布で作る」シュシュ作りは、当法人の井上節子理事と紅花染めグループの会員が作り方を指導しました。参加者は14名で、参加費は1,500円でした。

3月25日の「紅花(乱花)を使用する絵画教室」では日展会友の青木邦明氏が講師を務められ、紅花染めグループの会員が補助作業を行いました。

紅花(乱花)が画材としてどのように利用されるのか興味津々の中で、モチーフも面白い作品が出来上がり、参加者は満足気な表情を浮かべていました。絵画教室には18名の参加者があり、参加費は500円でした。



シュシュ作り



絵画教室

■親子で紅花染め体験

令和4年12月3日、中山町中央公民館において、一般財団法人山形県教育共励会主催の子ども育成事業が開催されました。

内容は「世界でただ一つ！親子で自分達だけの紅花染めを作ろう！」です。この企画は大変好評を博し、親子20組・合計40名の参加者があり、当法人の井上節子理事と紅花染めグループの会員が指導しました。

紅花染めは始めての方が多く、鮮やかに染め上がった生地に感動した様子でした。

この貴重な体験を通して親子の絆がより一層深まったのではないのでしょうか。



■歴史散策——人力車今昔

明治時代に迷信打破の先駆者であった哲学者の「井上円了」は、大正5年に山形県内を巡講する中で豊田村に講演のため訪れた。講演は柳沢の柳沢寺で行われ、聴衆は約400名集まったと云われている。当時左沢線は未だ開通していないため、移動に人力車が使用された。円了が豊田村に入ると柏倉九左衛門家の人力車に乗って柳沢寺まで移動したと云われている。

当時使われたと思われる人力車が旧柏倉家住宅の大工小屋に今でも飾られている。構造はリヤカーのフレームで、タイヤも頑丈な太さがあり、タイヤカバーは木製である。柏倉家16代当主の

桂子さんは、ご幼少の折にお母様とこの人力車に乗車した思い出があると話された。

今年のひなまつりに、人力車の愛好家（スナフキンさん）が旧柏倉家住宅前から柏倉清右衛門家まで人力車を引っ張って現われ、早速柏倉家16代当主に乗車を勧められた。自動車が一般に普及するまで、人力車は重要な乗り物であった。



大工小屋に飾られている人力車



現代の人力車に乗車した柏倉家16代当主

NPO法人の事務局員募集

当NPO法人の事務局の業務に感心のある方で、PCスキルのある方を募集しています。

主な事務作業としては、出納業務、NPO法人の諸手続き、会報作成等々です。

事務処理はご自宅での作業が基本で、NPOの事務所に出勤することは基本的にありません。

委細については、下記事務所にご連絡下さい。

NPO法人黒堀の里山保存会 事務所

〒990-0408

山形県東村山郡中山町大字岡 113 番地

TEL 023-663-2722

FAX 023-663-2723

ホームページ：<https://kurobei-satoyama.main.jp>